



福島医大ふくしま子ども・
女性医療支援センター教授
高橋 俊文氏

今年は「風疹」が流行しています。風疹は先進国でほとんど発生しない病気となっていますが、日本は例外的に発生が多い国の一つです。妊婦が妊娠初期（妊娠二十週まで）に風疹に感染すると、赤ちゃんに、目の病気（白内障）、心臓の病気、耳の病気（難聴）が起きる「先天性風疹症候群」が発生します。日本では二〇一〇〜二〇一三年に流行し、多くの先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれました。アメリカ疾病管理予防センターからは、十月二十一日現在、妊婦の日本への渡航を控えるよう警告が出ています。

風疹は風疹ウイルスによっておこる急性の発しん性疾患です。潜伏期は二〜三週間、主な症状は発しん、発熱、リンパ

風疹の流行は、風疹にかかったことがない、ワクチン未接種の三十〜五十歳代の男性患者がきっかけとなっています。今所、都会での発生が中

抗体価の検査を受けてください。もし、風疹抗体価が低い場合は感染予防対策を取ってください。具体的には、不特定多数が集まる場所や人混みは

クチン接種ができません。職場での感染予防も重要です。成人の多くは軽微な症状だと、継続して出勤していることが多く見られます。職場の健康管理者は、職員（特に三十〜五十台男性）が発熱等の症状がある場合は、医療機関を受診するように促してください。

ワクチン接種徹底を

節の腫れが認められませんが、本県での風疹患者も確認されており、引き続き注意が必要で

心ですが、本県での風疹患者も確認されており、引き続き注意が必要で

避け出歩かないようにすることです。夫や同居家族の風疹ワクチンの接種、風疹にかかったこと

先天性風疹症候群はワクチン接種で防げる病気です。赤ちゃんの風疹感染を予防するためには、全ての大人が風疹に対しての知識とワクチン接種を徹底することが重要です。風疹抗体価の測定や

状況が消えるまでの間、感染します。

「」が出ています。

種を行ってください。ワクチン接種後二〜三週間

で効果が出てきます。妊

妊婦と風疹感染

断を受けた女性は、風疹に感染している女性本人はワクチン接種後二〜三週間効果が出てきます。妊婦が判明した場合、以下の点に注意して行動してください。妊娠の診断を受けた女性は、風疹に感染している女性本人はワクチン接種後二〜三週間効果が出てきます。妊婦が判明した場合、以下の点に注意して行動してください。妊娠の診断を受けた女性は、風疹に感染している女性本人はワクチン接種後二〜三週間効果が出てきます。妊